

# 中小企業が取り組むべき「持続可能な開発目標 (SDGs)」

SDGs (エスディーゼズ)とは、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年までを期限とする17の国際目標です。2015年9月の国連サミットにおいて、全会一致で採択されました。

SDGsでは、国際機関、政府、企業、学術機関、市民社会、子どもも含めた全ての人が、それぞれの立場から目標達成のために行動することが求められています。

## 〈SDGsの概要〉

SDGsのゴール(目標)は、①貧困(貧困をなくそう)②飢餓(飢餓をゼロに)③保健(全ての人に健康と福祉を)④教育(質の高い教育をみんなに)⑤ジェンダー(ジェンダー平等を実現しよう)⑥水・衛生(安全な水とトイレを世界中に)⑦エネルギー(エネルギーをみんなにそしてクリーンに)⑧成長・雇用(働きがいも経済成長も)⑨イノベーション(産業と技術革新の基盤をつくろう)⑩不平等(人や国の不平等をなくそう)⑪都市(住み続けられるまちづくりを)⑫生産・消費(つくる責任つかう責任)⑬気候変動(気候変動に具体的な対策を)⑭海洋資源(海の豊かさを守ろう)⑮陸上資源(陸の豊かさを守ろう)⑯平和(平和と公正をすべての人に)⑰実施手段(パートナーシップで目標を達成しよう)の17項目です。

## 〈なぜ中小企業がSDGsに取り組む必要があるのか〉

### ① 中小企業は、SDGsの実施・達成のキープレイヤーです

SDGsの実施・達成に向け、政府だけではなく、様々なプレイヤーが行動を起こすことが想定されています。中でも、民間企業の力、特に中小企業の力が重視されています。

### ② SDGs市場は大きく、中小企業にとってもビジネスチャンスです

SDGsの達成には、民間企業が提供する商品やサービスが必要とされています。また、SDGs達成のための新たな技術やビジネスアイデアも求められています。

### ③ SDGsを取り入れているかどうか、「会社選び」の基準になるかもしれません

SDGsを使ったバリューチェーンの見直しがビジネス界でも進んでおり、サプライヤーにも影響が出ると考えられます。また、ここ数年のESG投資(\*)の拡大は、持続可能な社会に貢献する企業への投資拡大を意味しています。

(※財務情報だけではなく、企業の環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)に関する取り組みを重視する投資のこと)

### ④ SDGsに取り組むことで、企業イメージのアップ、従業員の確保や「やりがい」に繋がる例が報告されています

SDGsに取り組んでいることが、社会における自社イメージや社会的信頼をアップさせ、優秀な人材を引き付けることにもつながります。また、SDGsを通じて企業活動が世界や社会とつながることで、従業員の仕事の「やりがい」を生み出し、モチベーションの向上にも役立っている事例が報告されています。

### ⑤ SDGsは企業の「これから」を考える指針になります

自社は時代のニーズに合った活動をしているでしょうか。企業の存続のために何を考える必要があるかを考えるとき、SDGsは共通の「モノサシ」になります。SDGsから自社を見たとき、働き方改革、女性活躍、社会的弱者の活用など、多くのヒントを与えてくれるかもしれません。

以下より一部抜粋

・外務省「持続可能な開発のための2030アジェンダ」

(URL:<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000270935.pdf>)

・神奈川県「中小企業のためのかながわSDGsガイドブック」

(URL:[www.pref.kanagawa.jp/documents/47875/sdgs\\_guide\\_a3.pdf](http://www.pref.kanagawa.jp/documents/47875/sdgs_guide_a3.pdf))